

令和4年度 学校自己評価書

鈴鹿市立白子小学校					
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)	評価指標・行動指標	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1.授業改善 ・全教員による授業公開 ・「めあて」「まとめ」「振り返り」を位置付けた授業スタイルの確立	・研究授業を行う教員:100% ・学力調査(学期末テスト)・みえスタディ・チェック:全国平均・県平均以上 ・児童アンケート「授業はわかりやすいですか」:90%以上	○研究授業を行う教員100% ○全国学調 6年:国語102算数100(全国比) みえSC 5年:国語113算数96(県比) 4年:国語103算数110(県比) ○児童アンケート「授業はわかりやすいですか」:91.3%	・研究授業の成果が認められるさらなるスキルアップを望む。 ・平均以上の結果となり良いと思います。これからも今までの取り組みを継続していければ良いと思います。 ・学調等の成果は、概ね平均値を保つことができている。学年教科ごとの差はあるが、現状値の維持継続を更に目指されたい。	・今年度の取り組みだけでなく、昨年度までの取り組みの積み重ねによる成果もある。今後も全国学調やみえスタディ・チェックの分析結果をふまえ、研究授業や研修を積み重ね、教師のスキルアップに努めたい。
	2.基礎学力の向上 ・少人数指導(習熟度・TT)によるきめ細かな指導 ・自主プリント学期毎1人50枚以上 ・学習環境・学習規律の確立	・算数科少人数指導実施学年(1,2,4,5年生)の算数単元テスト:全国平均以上 ・自主プリント達成児童:95%以上 ・「よりよい学習を進めるためのびき」の作成とそれに基づいた教師アンケート:学期末1回(三部で連携)	●校内事情により少人数指導の時間が縮小され、年間通じて安定した少人数指導ができなかった。算数科の単元テストにもムラがあった。来年度は、人員確保と年間通じて安定した少人数指導の時間の確保を希望する。 ○単元末テスト(全国平均以上) 1年91点/全国85点、2年87点/全国80、みえSC4年59.1%/県53.7%、5年53.9%/県55.9% ●自主プリントの達成率(1年89%、2年52%、3年72%、4年87%、5年47%、6年96%) ○「よりよい学習を進めるためのびき」をもとに、指導の振り返りを行った。(1・3学期末)	・自主プリント2年・5年がやや低い。令和3年度の1年・4年の達成率はどうだったのか。ヤル気を出させる方法が必要。 ・自主プリントの達成率が95%以上とのこと。先生方のご指導の成果だと思います。基礎学力確保のためにも続けていただきたい。 ・自主プリントの達成率は家庭学習の習慣の定着につながると思います。継続をお願いします。 ・自主プリント達成について、学年ごとのバラつきが顕著に表れている。その結果について考察を行い、改善に繋げて下さい。 ・自主プリントの達成率の結果から考察されるのは、宿題・塾・学校での隙間時間を見つけて取り組むのは、忙しい中大変なのではと思われる。目標枚数の見直しも必要ではないでしょうか。 ・急な教員数の減少のなかでも、先生方が一丸となって取り組んでいただいたおかげで平均以上という成果を得られたと思います。 ・学習ボランティアの募集を引き続き行い、人員の確保につながると良いと思います。	・自主プリントの達成率の低さは児童の問題だけではなく、隙間時間などをうまく使ったり、こういう時にするとよいという声かけであったり、教師側の働きかけも大きい。(昨年度1年4年は95%程度だった) ・新しく転任された先生方も含め、年度当初に目的や運用の仕方について意思統一を図るため、声かけの仕方やすき間の時間の有効活用などの紹介をして、自主プリントの取組を学校全体で推進していきたい。 ・自主プリントの名称も検討地がある。 ・学習ボランティアの募集も引き続きお願いし、児童の学力保障のお手伝いをお願いしたい。
	3.家庭学習の習慣化 ・家庭学習の手引きを作成し、学年×10+10分程度の家庭学習時間の確保	・児童アンケート「宿題をきちんとしていますか」:90%以上 ・保護者アンケート「お子さんは家庭学習の習慣がついていますか」:90%以上	○児童アンケート「宿題をきちんとしていますか」91% ●保護者アンケート「お子さんは家庭学習の習慣がついていますか」71.2% 目標には届いていないが昨年度比較で5ポイントアップしている。引き続き、家庭学習の重要性を啓蒙していく。	・保護者アンケート71.2%。宿題以外の予習等を期待している。 ・設問が違うが、保護者と児童の意識に差異がみられる。家庭学習・宿題の精度や習慣について保護者側が期待の高い認識があるように思う。	・音読や音声計算など継続する宿題を毎日出してきたからこそ、保護者も気にかけていただくことができ、意識を高く持っていただいているようである。今後も各学年、音声計算、音読と国語・算数の宿題を出し、学力の定着と家庭学習の習慣につなげたい。
ICTの活用	1.ICT機器活用力の向上 ・情報担当を中心に効果的な活用方法の研修の充実	・ICTミニ研修会:年5回以上 ・ICT全体研修会:年1回以上	○ICTミニ研修会5回実施(3学期実施予定含む) ○ICT全体研修会1回実施 ○過度な負担にならないよう、希望者制で研修し、一人ひとりが機器活用力の向上に努めた。	・数値指標は達成できています。ICTの活用は多様であり、新たな活用手法など情報収集に努めて、有効と思われる手法は職員間で共有して進めてください。	・負担にならないようなミニ研修会は好評で、今後も継続し、個々の教師のスキルアップを図りたい。
	2.ICT機器を活用した授業の推進 ・日常的な活用の推進 ・ICTサポーターの活用	・ICT推進委員会の定例化:年10回以上 ・ICTサポーターとの連携授業毎学期1回以上	○ICT推進委員会10回実施 ○ICTサポーター活用 1・2年:1回 3年:2回 4年:3回 5年:7回 6年:4回 ○推進委員会で実践内容の共有や使い方の指導内容の議論など、機器活用について有意義な議論ができた。		・指導内容におけるICTの取り入れ方やアプリの紹介、モラル指導など、ICTサポーターを今後も活用して、より良い授業改善に努めたい。
	3.家庭学習での活用 ・持ち帰りによる家庭学習での	・長期休暇の持ち帰り:100% ・日常的な持ち帰り:週1回以上	○長期休暇の持ち帰り:100%	・慣れることが大切。持ち帰りの日を増やすことが望まれる。	・高学年(4~6年)は、日常的な持ち帰り、低学年(1~3年)は週1回以上の持ち帰りを。また、

	活用の推進		○日常的な持ち帰り 高学年週1回以上	・先生の負担になっていると思う。	家庭での学習内容の質の向上についても検討の余地がある。
不登校	1.人権尊重を基盤に据えた授業実践 ・「わかった」「できた」という達成感を感じる授業 ・承認活動の充実と自己肯定感の醸成	・人権アンケート「自分にはいいところがあると思いますか」:90%以上 ・児童アンケート「先生は、あなたの話をよく聞いてくれますか」:90%以上	○児童アンケート「先生は、あなたの話をよく聞いてくれますか」:90.2% 子どもの思いに寄り添った指導、支援、保護者との連絡を密にする。	・話をよく聞いてあげて下さい。(一クラスの児童数も多いので先生方も大変だと思います。) ・人権アンケートの数値指標が示されていないので、児童の自己肯定感の推移が分かりにくいです。	・今年度末に自己肯定感アンケートを実施し、来年度にも1学期末、学年末年2回実施し推移を比較できるようにする。
	2.全ての児童が居場所のある学校づくり ・自主的活動の充実 ・いじめアンケートによる児童の実態把握と早期対応 ・SC、SLSの活用や関係機関との連携	・代表委員会によるあいさつ運動:月1回 集会活動:前後期1回(生指部と連携) ・児童アンケート「学校に来るのは楽しいですか」:90%以上 ・不登校(傾向)児童の、児童生徒理解・支援シートの作成:100%	●児童アンケート「学校に来るのが楽しいですか」:85.7% 普段の様子をしっかりと見て子どもの変化に気づけるようにする。 ○不登校(傾向)児童の、児童生徒理解・支援シートの作成:100% 国際系6年生については引継ぎシートを作成。成果 職員間の情報共有ができ、関わる人が増えて登校が少しずつできるようになった。来れない子もいる。	・不登校の原因は大人にとっては些細なことでも、子どもにとっては重大なこと。原因が分かるといいが。 ・残り14、3人の児童の楽しくない理由についてもう少し掘り下げて対応することが必要だと思います。 ・現状値が下がらないように創意工夫を行い、毎日児童が楽しいと思える学校づくりをしてください。 ・子どもさんたちの変化にも気を配ってみえる先生方のご苦労が報われると良いです。 ・新型コロナウイルスの影響との兼ね合いがあると思いますが、校内行事がコロナ以前に戻ると良いと思います。	・SC、SLSとの連携はとてもよくできているので、これからも続けていきたい。 ・特別支援コーディネーターを中心に組織的な取組を推進すると共に、児童生徒理解支援シートを作成し、こまめに進捗状況を関係職員で共有する。
不登校					
	1.地域に「開かれた学校」の推進 ・地域人材・地域教材を活用したキャリア教育の推進 ・地域ボランティアの活用 ・地域・家庭と連携した防災、防犯、交通安全の取組	・すずか夢工房等外部人材を活用した出前授業:各学年年1回以上 ・ボランティアによる学習支援や見守り支援等:年200回以上 ・津波避難訓練、引き渡し訓練:年1回 ・交通安全教室:年1回	○津波避難訓練と引き渡し訓練を5/18に実施。地域ボランティアや警察とも連携しながら行った。また、3/10に全学年、外部人材による防災学習を行う。 ○学習ボランティア201回(R5.1.13現在)。登下校の見守り支援や避難訓練、読み聞かせや図書館整備にも支援に来ていただいている。 ○交通安全教室を5/25に実施。	・乗馬体験授業は感動した。 ・白子の伝統産業を子どもたちにもっと体験・経験できる時間を充実してほしい。	・来年度も、地域や保護者とも連携しながら、津波避難訓練を実施したい。また、大雨等他の場面を想定した引き渡し訓練の実施も検討していきたい。 ・ボランティア、地域人材の活用を一層すすめる。特に総合的な学習における地域学習を系統的に位置付ける。
地域連携	3.教育活動の公開・情報発信 ・学校行事と授業参観の公開 ・たより・HPによる情報発信	・学校公開デー:学期1回 ・学年だより発行:年12号以上 ・学校だより発行:年20号以上 ・ホームページ更新:各学年学期3回以上 ・保護者アンケート「学校通信やHP等で知りたいことが伝わっていますか」:90%以上	●6/13、14の2日に分けて授業参観。11/1は2時間の学校開放デーを行った。三学期は未実施。 ○学年だより(毎月・運動会号など臨時号)を12号以上発行。学校だより20号(R5.1.13現在) ●保護者アンケート「学校通信やHP等で知りたいことが伝わっていますか」80.4% R3より2.3%減 ホームページに掲載したことも情報発信していく必要がある。	・授業参観参加はうれしかった。気になる子の様子もみられたが、改善策は・・・。 ・授業参観ができるようになり、子どもたちの様子を見られ良かったです。保護者もたくさんみえて良かった。 ・学校だよりも届けていただいていた様子がよく分かりました。 ・学習ボランティアとして子どもたちに直接接する時間がコロナ禍以降少なくなっているのが残念です。もう少し低中学年の授業の学習支援ができるようになることを願います。 ・保護者が欲しがっている情報は何なのかアンケートをしてみても良いかと思えます。 ・保護者が求めている情報を的確に探りながら、情報発信に努めてください。	・感染症に注意を払いながら、学習ボランティアやゲストティーチャーなどの活用をさらに進めていく。 ・学校だよりやホームページで学校の取組を積極的に情報発信していく。
特別支援教育	1.個に応じた支援の充実 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な対応 ・個別の支援計画・個別の指導計画の整備と児童の情報共有 ・外国籍児童の支援体制の充実 ・外国籍児童巡回相談(支援)員の活用	・支援会議、ケース会議の実施:必要に応じて ・個別の支援計画・指導計画の充実:前期後期2回更新 ・独自の国際学級設置による取り出し:週5時間 ・外国籍児童巡回相談(支援)員来校日の支援内容の視覚化(ホワイトボード)	○支援会議、ケース会議を必要に応じて実施している。 ○個別の支援計画・指導計画を前期後期2回更新している。 ○独自の国際学級設置し、週5時間取り出しを行っている。 ○外国籍児童巡回相談(支援)員来校日の支援内容の視覚化(ホワイトボード)	・評価指標は達成できている。ケースに応じた支援について、精度を高めながら安心して学習できる学校づくりをして下さい。	・障がい者理解の促進につながる取組を行いたい。 ・支援が必要な児童については、校内支援会議を持ち、対応策について協議していく。
	2.特別支援教育の視点にたった教育活動の充実 ・刺激のない落ち着いた学習環境づくり推進	・ユニバーサルデザインの授業づくり研修会:年1回 ・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師の振り返り	○ユニバーサルデザインの授業づくり研修会:年1回 ○「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師の振り返りアンケート:学期末1回	・評価指標は達成できている。	・特別支援教育に関する研修会を1回以上持つ。 ・研修会で学んだことを実践できるように、振り返りをおこないながら、ユニバーサルデザインの授業づくりに取り組んでいく

	・見通しを持たせた教育活動の充実	アンケート:学期末1回95%以上(三部で連携)	95%以上(三部で連携)		ホントに頑張っている。
生徒指導	1.落ち着いたある生活態度 ・重点目標(挨拶・返事、廊下階段歩行、チャイム、トイレの使い方、校内の整頓、無言清掃)の凡事徹底	・重点目標の振り返り:毎月の三委員会時 ・児童アンケート「進んであいさつをしていますか」90%以上 ・児童アンケート「無言清掃」90%以上	●児童アンケート「そうじを時間いっぱいしっかりしていますか」81% R3より6.1%増であるが、まだまだ児童の無言清掃が徹底されていない。 ●「進んであいさつをしていますか」78.7%(子)63.3%(親)で、目標にも到達していない。児童自身の反応もなく、自分からのあいさつに関してはないに等しい。あいさつの意味の指導が必要 ●「そうじを時間いっぱいしっかりしていますか」という問いに、そう思う、どちらかといえばそう思うが81.0%であった。無言清掃ができていないように感じる。これに関しても、無言で行う意味の指導を。	・挨拶について、声を出しにくい児童が多い。まず会釈からでも。 ・掃除=楽しくない(楽しく出来る工夫を!) ・掃除や挨拶は社会に出ても大切なことなので、小学生のうちから習慣になるように指導の方をよろしく願います。 ・マスクを付けて無言清掃は難しい。早く平常にと願うが、注意するしかない。 ・「挨拶を進んで子どもたちから」ということはとても大事なことであり、先生方のご指導に頭が下がります。学校に伺った時、子どもからというのはあまりありませんが、こちらから声をかけるとほとんどの子どもたちが挨拶してくれます。家庭の協力が必要なのではないのでしょうか。 ・登下校の挨拶は児童だけではなく、地域の人の声かけ(挨拶)も少なくなっているのではないのでしょうか。 ・家庭でのしつけ状況に大きな要因があると思います。挨拶は日常生活の基本であり、家庭内で「おはよう」「行ってきます」「ただいま」「いただきます」などの家庭内の習慣づけが重要と考えます。学校でできることは、全ての児童に小さなところでも良い行動を見出してほめて、改善に繋げてください。	・あいさつを自分からすること、それ以前にあいさつに答えることすらできない様子が見られる。そのため、あいさつをする意義を集会などの場で話したり、素晴らしいあいさつをしている児童の様子を動画に撮って発信したりする。 ・子どもたちから、あいさつの活動をしていけるとよい。あいさつの見える化や回数の数値化をし、児童が自発的にあいさつできるようにする。 ・家庭への啓発。 ・どの学年も黙って掃除が難しい。なぜ黙ってそうじをするのかそこを来年度は伝えていきたい。各学年の掃除の場所の振り分けは、学年の実態に応じて考えていく必要がある。 ・環境の乱れは、言葉・行動の乱れにつながるため、重点目標の凡事徹底に努める。
	2.児童の学習規律の定着(生徒指導の基本は普通の授業にある) ・学習環境・学習規律の確立	・「よりよい学習を進めるためのびき」に基づいた教師アンケート:学期末1回(三部で連携)	○教員の生徒指導観の共有の徹底をさらに強化させる必要がある。		・三委員会で話し合い、企画したことを職員会議で伝えていく。 ・定期的な校則の振り返りをする。
	3.問題行動の未然防止 ・仲間づくりと自主的活動の充実 ・電話・家庭訪問・懇談会・PTAとの話し合い等による保護者との連携	・代表委員会によるあいさつ運動:月1回 集会活動:前後期1回 ・保護者アンケート「白子小学校は、お子さんのことを気軽に相談できる学校ですか」:90%以上	●保護者アンケート「白子小学校は、お子さんのことを気軽に相談できる学校ですか」という質問は、昨年度は86.3%から84.9%になっている。特にそう思うの減少が顕著である。	・8割以上の保護者の方は気軽に相談できると回答されているので、残りの保護者の方がなぜ相談できないのかをアンケートしてみても良いかと思えます。	・日頃から、児童の様子を電話で伝えたり、家庭訪問を通して、気になることを話したりしていく。 ・学級通信や学校通信で児童の様子を伝える。
組織的な学校運営 働き方改革	1.全教職員による学校運営へ参画 ・人事評価制度を活用した面談 ・三委員会等の活性化 ・風通しのよい職場づくり	・面談:年3回以上 ・三委員長等との意見交換:毎月の三委員会前後 ・コンプライアンス宣言の設定:全教職員100%	●コンプライアンス宣言を全教職員(100%)で行い、職員室に掲示するとともに、学期ごとの振り返りを行っている。打ち合わせや職員会議で不祥事について周知してきたが、交通事故が加害被害合わせて5件発生した。	・日が暮れるのが早いので、暗くなる前に帰宅するようにお願いします。	・三委員会で話し合った内容について、企画委員会等で意見交換をし学校運営に生かしていく。 ・コンプライアンス宣言や研修を行い、不祥事防止への意識を高めるとともに、日常の教職員間の情報共有を通して不祥事の起こらない風通しの良い職場環境づくりに努めていく。
	2.時間外労働の削減 ・職員会議提案資料の事前確認と提案の簡潔化 ・校内掲示板の確認と共通取組の遵守	・一人当たりの月平均時間外労働:30時間以下 ・放課後開催の60分以内の会議:70%以上	○12月までの一人当たり月平均労働時間28.6時間。目標を達成できているが、個人差がある。 ○放課後開催の60分以内の会議75%ペーパーレス化を図り、職員会議の時間短縮に努めている。	・一般企業では管理職が帰らないと帰りにくい。学校も同じだろうが。 ・先生の仕事の負担を少なくして、児童の指導の方を徹底してほしい。 ・時間指標の目標は達成されており良好です。管理職の方の労働時間が増加して負担が掛かっていないか心配されます。職員のお宅への持ち帰り業務等もある場合には、時間外労働に加える必要があると思います。	・教科担任制を導入し、担当の教科を減らして教材研究の時間を確保する。 ・行事や取組の実施方法のさらなる見直しを行っている。 ・業務を計画的に進めると共に、互いに締切日を遵守する。